

甲斐市立双葉東小学校 自己評価書

令和6年2月8日(木) 作成

校長 「竹野 貢造」 記述者 職名(教頭)「花形 健一」

学校教育目標 『やさしく かしこく すこやかに』

- (1) 心豊かで 思いやりがある子ども
- (2) 自ら学び 自ら考え 行動する子ども
- (3) 心身共に健康で安全な生活をめざす子ども

学校経営目標

- (1) 生きる力の育成 ～心の教育を基軸に「知・徳・体」のバランスよい育成～
- (2) 学校・家庭・地域の連携 ～開かれた信頼される学校づくりの推進～
- (3) 教職員の資質向上 ～教師こそ最大の教育環境であることを意識した実践～

学校経営の基本方針

- (1) すぐれた伝統を尊重し、児童や地域社会の実態を把握し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 豊かな心の育成に向けて、豊かな人間性とその基盤となる道徳性を育てるために、研究・実践に当たる。
- (3) 確かな学力の定着に向け多様な指導方法を工夫し、日頃の教材研究を十分行い、学ぶ喜び分かる喜びを味わわせると共に、基礎・基本の確実な定着を図る。
- (4) 体力の向上、健康な身体づくりのために、体育の授業の充実、業間時間の外遊びの推奨、疾病・怪我から身を守る力の育成等を図る。
- (5) 児童集団の中に起こる様々な問題・課題に対して、子ども自らが気づき、解決に向け発言し、集団の向上・発展に向かって立ち上がる指導を通して、集団づくりを行う。
- (6) 不登校やいじめ等児童の課題に対して、担任一人だけの悩みとせず、学年体制、全校体制など組織的な対応のもとに適切な支援・指導を行う。
- (7) 教育課程の編成・実施・評価・改善のシステムを大切にし、それらが相互に働くように努める。
- (8) 学校の施設・設備、地域素材・地域の人材を活用し、幅広い教育活動を展開し、児童の生きる力の育成に努める。
- (9) 児童の安全確保と学校の安全管理の充実を目指して、教育環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと児童の健康・安全教育を推進する。
- (10) 特別支援学級の経営及び特別な支援を必要とする児童の共通理解と適切な指導に努める。
- (11) 学校・家庭との信頼関係を大切にしながら、児童の良い点や課題について、共に考え合い育てるといった基本的な関係を踏まえて、適切に情報交換する。
- (12) 教職員は常に課題意識を持ち、常に前進・向上を求めて研修・実践に努める。
- (13) 教職員が互いに協力して、社会一般からの要請事項に応えられる職場環境作りに努めながら、子どもたちに向き合う教育活動に専念できるようにする。
- (14) 開かれた特色ある学校づくりを推進するために、学校の情報を的確に保護者・地域に発信しつつ、家庭や地域社会との連携や学校評価システムの効果的運用を図り、教育効果を高める。

本年度の努力点

- (1) 所属感、有用感をもつことができる集団づくりの実践
- (2) 「主体的・協働的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- (3) いじめ、不登校を生まない学校体制の構築
- (4) 運動習慣や心身の健康保持増進等、望ましい生活習慣の形成
- (5) 安心安全な学習環境づくり

1 全体評価 回答 A：とてもそう思う B：そう思う C：ややそう思わない D：そう思わない E：わからない

【教職員】

- いくつかの設問において、否定的回答（C・D）が若干数あるものの、全設問における肯定的回答（A・B）の平均が96.1%と高い評価結果である。全教職員による学校教育目標の具現化に向けた取組がなされていると言える。
- 以下の設問については、他の設問と比較し評価がやや低いので、改善を図っていく必要がある。
「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」（80.0%）
「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」（78.1%）

【保護者】

- 全体的にB回答が多いものの、学校の教育活動に関する設問では、肯定的回答（A・B）の平均が84.1%であり、保護者の学校の教育活動に対する信頼がうかがえる。肯定的回答（A・B）の割合が低い設問（「学校は、心の教育に力を入れて取り組んでいると思う。」）については、わからない（E）の割合が肯定的回答の次に多い結果となっている。
- PTA活動については、肯定的回答（A・B）が43.5%と最も低い結果となっている。コロナ禍で活動が中断したこと、PTA組織の改編があったことが影響しているものと思われる。
- 家庭の教育活動に関する設問では、肯定的回答（A・B）の平均が77.2%であるが、設問により結果にばらつきが見える。

【児童】

- 肯定的回答（A・B）の平均が89.7%と高い評価であり、児童の徳知体を育む本校の教育活動において、伸び伸びと学校生活等を送っている様子が窺える。
- 学校生活に関する項目で、A回答の割合が80%を超えた設問は、「先生はよく勉強を教えてくださいませんか。（82.4%）」「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。（81.2%）」の2つである。すべての設問において、A回答の割合が多くなることを目指したい。

【保護者・児童】

- ＜挨拶＞ ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合
【保護者】「学校は、子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導していると思う。」（72.9%）
「ご家庭では、お子さんに進んで挨拶をするように言っていますか。」（87.5%）
「ご家庭では、家族で互いに挨拶をしていますか。」（97.3%）
【児童】「だれとでもあいさつをしていますか。」（85.8%）
- 学校では、児童会活動で朝の挨拶運動に取り組んでいる。旗振り当番の保護者や地域の見守りボランティアの方々にも元気よく挨拶ができるよう、今後も継続して指導していく。
- 家庭での生活において改善したい設問は、以下の通りである。
 - ・「（お子さんは）家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。」
【保護者】全くしない…39.7% 【児童】30分より少ない・全くしない…57.9%
 - ・「（お子さんは）家で、スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを、学習以外で、一日あたりどのくらいの時間、使いますか。」
【保護者】2時間以上…35.9% 【児童】2時間以上…48%
 - ・「朝ごはんを食べて登校していますか。」
【保護者】「あまり食べていない。（10人）」「食べていない。（4人）」
【児童】「あまり食べていない。（19人）」「食べていない。（13人）」
- ・児童アンケート「月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。」の設問では、「午後11時以降」と回答している児童が、21人である。

2 設問ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、99.2%である。「学校教育目標」「学校経営」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>・「あなたは、PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている。」「あなたの学校は、特別支援教育の体制を整え、全職員の協力の下教育活動を行っている。」の設問は、1人がC回答であり、他の設問は肯定的回答（A・B）が100%である。</p>
改善策	<p>◆「あなたは、PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている。」と「あなたの学校は、特別支援教育の体制を整え、全職員の協力の下教育活動を行っている。」のどちらの設問も、A回答の割合がB回答の割合を上回っていることから、学校全体としてはPDCAサイクルがさらに機能するよう、教職員一人一人の意識をより高めること。今後益々需要の高まることが予想される特別支援教育に対して、全職員の協力体制の確立と意識向上に努めることに取り組む。日々の教育活動が前例踏襲ではなく、子どもたちにとって意義あるものとなるよう、今後も反省を生かしながら、改善を図っていきたい。</p>
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、96.1%である。教職員それぞれが、チーム双葉東小の一人であると自覚し、協力して学校運営に参画していると言える。</p> <p>・「あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。」「あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。」「あなたは、職務上『報告、連絡、相談、確認』を行っている。」の3設問は、肯定的回答（A・B）が100%である。50名を超える職員数であるが、個々に規律を守りつつ、情報共有を密にしながら、チームとして連携して教育活動に当たれていることがわかる。</p> <p>・以下の設問については、否定的回答（C・D）が見られる。</p> <p>「あなたは、危機管理マニュアルを（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。」の設問は、C回答が2人。</p> <p>「あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。」「あなたは、校務支援システムを十分活用できている。」の設問は、D回答が3人。</p> <p>「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」「あなたの学校は、職員の適性や能力に応じた、校務分掌組織になっている。」の設問は、C回答が3人。</p> <p style="text-align: center;">※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p>【保護者】「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」（89.7%）</p> <p>【児童】「学校は楽しいですか。」（91.9%）</p> <p>・学校が児童にとって好意的な場所となっていることがうかがえる。</p>
改善策	<p>◆自然災害や事故、不測の事態の時に、迅速、的確に対処できるようにするためにも、定期的に「危機管理マニュアル」に目を通す機会を設けるとともに、危機管理の主体が職員自らである自覚を高められるよう、職員の意識高揚に努める。</p> <p>◆今年度も昨年度に続き、研究主題「主体的・協働的に学ぶ子どもの育成」、副主題「ICTの効果的な活用を通して」を掲げ、校内研究を行った。ICT機器の活用は令和の日本型教育においては必須事項である。主体的な研修への姿勢が、自らの指導技術向上につながることを自覚し、より有意義な研究となるよう、今後も研究主任を中心に校内研究を推進していく。</p> <p>◆働き方改革を意識し、校務支援システムの有効活用、優先順位を決めた業務の遂行、会議の機能的実施等をいっそう推し進め、教職員が本来の業務に専念できる環境をさらに整えてい</p>

	<p>く。</p> <p>◆分掌組織については、年度当初に決定されたものを是とするのではなく、面談等も実施しながら遂行状況を把握し、より適切な分掌組織へと年度途中で変更を加えながら進めていくよう努める。</p>
<p>Ⅲ 学習指導について（保護者用アンケート等も含めて）</p>	
<p>達成状況</p>	<p>○肯定的回答（A・B）の平均が94.2%（内2つの設問で100%）であり、より良い授業を目指し、教職員一人一人が努力を重ねていると言える。学習指導は学校教育の根幹である。肯定的回答が、すべての設問で100%になることを目指したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業をおこなっている。」のA回答の割合は65.9%と、最も高い結果となっている。 ・「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」の設問は、否定的回答（C）が8人と非常に多い。「あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行なっている。」の設問は、否定的回答（C）が5人と次いで多い。 <p>【児童】 ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生はよく勉強を教えてくださいか。」の設問は、肯定的回答（A・B）が99.1%（A回答82.4%、B回答16.7%）であり、とても評価が高い。 ・「学校の授業は楽しいですか。」（90.6%）「国語の授業の内容はわかりますか。」（96.5%）「算数の授業の内容はわかりますか。」（94.1%）は、どれも肯定的回答（A・B）の割合が高い。 ・「授業で（勉強）でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。」（78.9%）は、他の設問に比べ肯定的回答（A・B）の割合がやや低い。 <p>【保護者】 ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」（91.5%）「お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。」（86.9%） <p>【児童】【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「（児童の設問）クロームブックを使うと授業がよりわかったり、もっと学びたいと思ったりしますか。」（94.5%）「（保護者の設問）クロームブックは、学習意欲や学力の向上に役立っていると思う。」（84.4%）保護者回答が10ポイントほど低い結果となっている。 ・「お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか。」（96%）「（児童の回答）宿題を忘れずにしていますか。」（94.1%）の設問は、肯定的回答（A・B）の割合が高いが、「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか。」（48.3%）の設問は、肯定的回答の割合が、半数を下回っている。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習自体を楽しみと感じられる学習指導が行えていることから、わからないこともその学びの質を深め高めるということを児童に対し啓発していくよう努める。 ◆今年度の校内研究の成果をもとに、児童一人一台末等のICTを効果的に活用した授業実践を今後も継続していく。家庭学習での利用も積極的に進めていく。また、児童が主体的に学習に取り組めるよう、協働的な学びができるよう、授業を工夫していく。 ◆学校運営協議会がスタートすることを機に、地域人材（保護者も含む）の活用を更に進め、そうした取組の様子を学校ホームページ等で積極的に周知することに努める。 ◆毎年、年度始めに、家庭学習の大切さとポイントを示した「家庭学習の手引き」を全家庭に配付している。今後もこの取組を継続し、家庭学習について、学校と家庭が連携して支援していく。

IV 生徒指導について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は、95.1%である。全職員が関係機関とも連携しつつ、情報を共有・共通理解を図りながら、指導および対応にあたっていることで、大半の児童は落ち着いた雰囲気の中で生活ができていると言える。</p> <p>・「あなたは、キャリア教育（キャリア・パスポートの活用、進路指導など）を児童の実態に応じて行っている。」の設問は、否定的回答（C・D）が6人と、他の設問よりも評価が低い。</p> <p>＜将来の夢や希望＞ ※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合 【保護者】「お子さんは将来の夢や希望をもっていますか。」（73%） 【児童】「将来の夢や希望をもっていますか。」（86.7%）</p> <p>＜規範意識＞ ※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合 【教職員】「あなたは、児童の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」（95.5%） 【保護者】「学校は、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」（85.9%） 【児童】「学校のきまりや約束ごとを守っていますか。」（96.6%）</p> <p>＜教師と保護者及び児童の信頼関係＞ ※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合 【教職員】「あなたは、児童理解のためにコミュニケーションを図っている。」（97.9%） 【保護者】「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。」（A回答いる：72.7%） 【児童】「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」（A回答いる：81.2%）</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◆教職員が一丸となっていじめは許さないという雰囲気を醸成し、スクールカウンセラーなどとも連携しながら、日常の見取りやきめ細かな指導・支援を行うことで、いじめ・不登校を生み出さない環境作りに努める。 ◆児童・保護者共に、担任だけでなく様々な学校職員に相談できる日頃の関係づくりに留意すると共に、そうした相談に適切に対応できる体制を整えていく。 ◆学校として児童に身に付けさせるべき規範（学校のきまりや社会のルール）を、全職員が共通理解し、職員が異なっても同様の指導ができる様にする。 ◆児童が自己を見つめ、将来の夢や希望をもつことができるように、キャリア・パスポートの取組をしっかりと行う。
V 地域との連携について	
達成状況	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は92.3%である。保護者や地域の声に耳を傾け、保護者・地域と連携しながら教育活動を行うよう努めていると言える。</p> <p>・「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」の設問では、否定的回答（C・D）が9人と、他の設問よりも評価が低い。</p> <p>・「あなたは、PTA活動に積極的に参加している。」の設問では、否定的回答（C・D）が6人と、他の設問よりも評価が低い。PTA新聞、愛のパトロール、奉仕活動の担当教職員は、PTA活動に直接関わることが多いが、担当でない教職員は、PTA活動に関わっていないという意識が低いかもしれない。</p> <p>※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合 【保護者】「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」（97%） 「PTA活動に参加していますか。」（43.5%）</p>

達成状況	<p>今年度より新しい体制となったPTA組織の元で、PTA活動が再開されている。これまであった学年部や専門部がなくなった影響もあり、様々な活動を、保護者ボランティアを募る形で進めてきた。〇〇部があった今まで、その部の仕事として割り当てられてきたことで、PTA活動が役員のものとして認識されてきたものと思われる。PTA活動は役員だけではなく全保護者の活動であるという認識へと転換していく必要があると思われる。</p> <p><広報活動> ※「 (%)」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合 【教職員】 「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」 (97.8%) 【保護者】 「学校 (学年・学級) だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」 (87.9%)</p> <p><保護者・地域の声> ※「 (%)」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合 【教職員】 「あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」 (97.8%) 【保護者】 「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。」 (77.1%) (E回答<わからない>13%)</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校運営協議会が始まることは、学校がより保護者や地域の声を得ることのできるチャンネルを増やすことにつながる。本校が抱える課題やあらたな問題点、児童や保護者の多様なニーズに対応するために、学校運営協議会の機能を最大限に生かして、学校と地域の連携を深めていくよう努める。 ◆より良い教育活動を行うためには、保護者や地域住民の意見や要望に、誠意をもって対応し、より良い信頼関係を構築する必要がある。そのために、新しいチャンネルとなる学校運営協議会のみならず、日頃のコミュニケーションを大切に、地域や保護者に対して開かれた学校に資する取組 (情報を発信や収集) を通じて、相互の信頼関係を築く努力を続けていく。 ◆PTA活動が保護者全体の活動であることを、機会を通して周知し、積極的に活動に協力していく雰囲気作り、環境作りに努める。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>○肯定的回答 (A・B) の割合は99.2%である。「学校の特色 [児童会活動、心の教育、みどりの時間 (全校集会)]」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>・「あなたは、児童が進んで学級活動や児童会活動に取り組むよう、指導を行なっている。」の設問は、否定的回答 (D) が1人いる。</p> <p><心の教育> ※「 (%)」の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合 【教職員】 「あなたの学校は、心の教育が充実したものになるよう、努めている。」 (100%) 【保護者】 「学校は、心の教育に力を入れて取り組んでいると思う。」 (59.3%) (E回答<わからない>23.7%)</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍を過ぎ、児童会活動やみどりの時間が通常通り行えるようになってきた。今後も充実した活動ができるよう、児童会主任、道徳主任を中心に活動の活性化に努める。 ◆毎年、道徳授業参観やみどりの時間に行われる「ちょっといい話 (教職員が児童の生活の中で見つけた {いい話} を紹介するコーナー)」を、今後も継続して取り組んでいく。 ◆学校としては心の教育に力を入れて取り組んでいるものの、その姿が保護者に伝わっていないことは大きな課題である。道徳の授業の様子や日頃の心の教育の取組等、たよりやホームページ等で保護者に伝えていくよう努める。

	<p>◆今後も、児童が益々生き生きとした学校生活を送れるように、全職員で協力して、本校の特色ある教育活動を推進していく。</p>
<p>VII 創甲斐教育について</p>	
<p>達成状況</p>	<p>○肯定的回答（A・B）の割合は98.4%である。「創甲斐教育」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>＜読書活動＞ ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合 【教職員】「あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。」（100%） 【保護者】「お子さんと読書したり、読書するように言ったりしていますか。」（47.8%） 【児童】「朝読書をがんばっていますか。」（94.8%）</p> <p>＜表現力＞ ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合 【教職員】「あなたは、様々な場面、活動において、児童の表現力を高める取組を行っている。」（100%） 【児童】「人前でしっかりと自分の意見が言えますか。」（77.1%）</p> <p>＜体力向上＞ ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合 【教職員】「あなたは、児童の体力向上や健康指導に努めている。」（95.2%）</p>
<p>改善策</p>	<p>◆朝の10分間読書、定期的な図書だよりの発行、読書週間での「おすすめの本の紹介」等の取組を継続して行うと共に、「家読」の啓発に努める。</p> <p>◆今後も、授業、児童会活動、いろいろな場面において、自分を表現することを価値づける取組を日常的に取り入れていくことで、表現力の育成を図っていく。</p> <p>◆今後も体育の授業、縦割り班での遊び、保健の授業、定期的な保健だよりの発行等を行い、児童の体力向上と健康に対する意識の向上に努める。</p>
<p>3 まとめ</p>	<p>＜成 果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員自己評価、保護者アンケート、児童アンケートとも、全体的に肯定的に評価されており、学校教育目標、学校経営目標を達成できたのではないかと考える。 ・評価を通じ、教職員、児童、保護者の3者で、評価が異なるものがあることも発見でき、今後の改善につなげる機会とすることができた。全体としてさらにより良い評価結果につなげられるよう、日々の教育活動に邁進したい。 <p>＜課 題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は知らないと不安になり、否定的思考への傾向を強めていく。今回、保護者評価にE回答（わからない）が多く見られたことは、大きな課題であると考えている。学校運営協議会が令和6年度より始まり、より地域や家庭と協力していく基盤が整えられていくことを好機と捉え、積極的に学校の様子について開示し、協力を得ていくようにしていきたい。 ・評価項目の一つ一つが教職員に課せられた目標であるという認識を確かなものにして、学校、保護者、地域が連携しながら、豊かな教育活動の推進を、引き続き図っていきたい。